



刺激を受けた2年生

～地域課題研究をバトンタッチ！～



2月15日の『蓼科学』では、2年地域コースの生徒がDVDを視聴しました。内容は、先日1月21日に行われた3年『地域Ⅱ』の課題発表会での立科ケーブルTV映像です(本通信(1月号その2)を参照)。立科町の人口減対策として、高校生ならではの独創的なアイデアを発表する様子を真剣に見入っていました。私は何人かの2年生に感想を聞いてみました。

Tくん 『先輩の発表は、課題を単純でなく多角的にとらえて論じていたので、すごいです。』

Yくん 『空き家での作業とかありそうなので、今から楽しみです。永田さんに要望します!』

Tくん 『僕はサバイバルゲームでの町おこしを構想しているので、来年も頑張ります!』

など、頼もしい感想が返ってきました。大いに刺激を受けた2年生。3年から映像による課題研究のバトンタッチを受けて、次年度の個性豊かな発表が楽しみです。

校用技師さん大活躍!

～学校生活を支える縁の下の力持ち～

ある雪の朝、昇降口で生徒を迎えている私に一人の3年生が近づいてきました。話を聞くと、登校中に自転車が雪で滑って転倒し、サドルが壊れたとのこと。さっそく校用技師さんに頼むと、難しい破損個所の修理をプロ顔負けの技術で仕上げてくださいました。また、雪で生徒が困らないように朝早くから除雪をしてくださっています。学校生活を支える要として、献身的なお仕事に心から感謝しています。



困ったお話(その59) (恐怖のザザ虫ご飯<前編>)

(※ザザ虫とは、天竜川などに生息するトビゲラの幼虫)

この季節、伊那市にある母親の実家に遊びに行くと、祖母が『業者が売りにきたで』といって小鉢に出してくれたものがあった。覗くと何やら足がいっぱい生えた芋虫のような佃煮だったのでびっくりしたが、食べてみるとイナゴと同じ味がして、おいしかった。「おばあちゃん、なにこれ?」と訊くと、『ザザ虫ね*』と教えてくれた。南信は昆虫食がさかんで、イナゴ(時々ウマオイやコオロギ入り)やハチノコ(スガレ、赤スズメバチ)などは、たまに食卓に上がっていた。たしか蚕の蛹も、農協のお総菜コーナーで他のおかずと一緒に売られていた気がする。いま何も知らない人が見たら、困るところかひきつけを起こすに違いない。

さて、大学生になり東京に行くと、デパ地下でそれらの「珍味」が缶詰や瓶詰になって売られているのを目撃した。ちょうどその日、私の下宿に友人たちが集まり飲み会をやるようとしていたので、話のネタにとザザ虫の缶詰を買ってきた。さて、買ったもののこのまま出すのは芸がない。そう、ハチノコは「ハチノコ飯」や「ハチノコ巻きずし」にできるので、きっと「ザザ虫ご飯」もあるはずだ。そう思い、実家の母親に電話で訊くと、『確かそういうのもあった気がする。』という答えだった(天国のおふくろ、大きな間違いだったよ!)

だったら炊き込みご飯の要領で、ご飯の素とともに缶詰の半分を炊飯器にザザッと入れ、スイッチオン。しばらくすると、醤油のおいしそうな香りが立ちのぼってきた。そのうち炊き上がりの音がしたので、「これはうまいった」と炊飯器のふたを開けた。その時の光景は、今でもトラウマになっている。水を吸って原寸大に膨れ上がったザザ虫が鈍く光る腹をくねらせ、ご飯の中をのたうち回っていた。

私は「ウツ」となったがこらえ、満面の笑みを浮かべ友人たちに振り向き、『さあ、伊那谷名物ザザ虫ご飯を召し上がれ』とすまし顔でよそってあげた。

私を含めみんな強がり、自分の弱気を見せたくないお年頃だった。(つづく)

